

平成17年3月1日

伏見区長 水田雅博様

私たちが考える望ましい伏見区総合庁舎 提案書

京都市伏見区の新しい総合庁舎のあり方について、平成16年11月27日（土）から4回にわたって開催したワークショップにおいて、市民・区民の視点から、数多くの有意義な意見や提案を致しました。また、合わせて来庁者アンケートや区役所ホームページでの意見募集などの市民・区民の声も参考に、この度、提案書としてその内容を取りまとめましたので、今後、市で策定される新伏見区総合庁舎基本計画等に十分生かしていただくよう、よろしくお願い致します。

伏見力で考えよう！！「我らが新伏見区総合庁舎」
ワークショップ 参加者一同

1 私たちが考える伏見区

私たちの住む伏見区は、伏見市、深草町、向島村、堀内村、竹田村、下鳥羽村、横大路村、納所村、醍醐村、久我村、羽東師村、淀町などとの合併・編入によって誕生し、かつては「京・伏見」と並び称され、独自のまちを形成してきました。また、古代から水運の拠点として栄え、水とともに発展してきました。「伏水」と表されていたように、良質な地下水が豊富で、地下水を活かした酒造業が発展し、全国第2位の清酒出荷量を誇る代表的産業となっています。

区内には、御香宮神社、醍醐寺、伏見稻荷大社、寺田屋、酒蔵の町並みなど数多くの神社仏閣、名所史跡などの歴史資源があり、祭りや伝統行事が受け継がれています。

そして今日では、横浜市港北区・青葉区に次いで日本全国で3番目に人口の多い行政区であり、高度集積地区における先端的な創造都市づくりなど、21世紀の京都の新しい活力を創造していく区として期待が寄せられています。

このような伏見区には、下図のように良いところも多い反面、色々な課題を持っています。今般、整備される伏見区総合庁舎が、伏見の良いところを一層伸ばし、また課題の解決につながるような今後のまちづくりを先導する拠点となることを希望します。

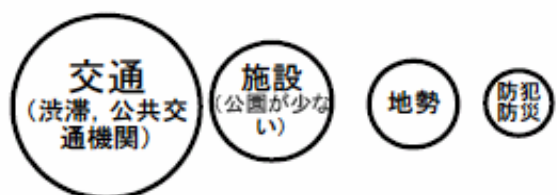
【第1回ワークショップの取りまとめより】

伏見区の良いところ・好きなのところ



- 伏見区の良いところ・好きなのところとしては、史跡などの歴史、河川や丘陵などの自然、酒蔵をはじめとする趣のある景観が多い結果となりました。
- 次いで多い産業では、酒造はもちろんのこと、商店街の賑やかな雰囲気が好きとの意見があります。
- また、人口の増加、子どもの数が増えていることも伏見区の将来に明るいイメージを増やしています。

伏見区の悪いところ・きらいなのところ



- 伏見区の悪いところ・きらいなのところとしては、道路が狭く渋滞しやすい、公共交通機関が不便など交通に関わる事項が上げられています。
- 一方、公共交通機関が便利との意見もあり、伏見区の広さや多様性が垣間見られます。
- 施設に関しては、子どもの数が増えていることから、安心して遊ぶことができる公園の数が少ないとの意見が多く出ています。

2 現在の庁舎等に対する私たちの認識

本ワークショップにおいて、私たちはグループごとに「区役所」「保健所」「福祉事務所・青少年活動センター」をそれぞれ視察し、その業務内容について担当の方から説明を聞きました。また、新伏見区総合庁舎建設予定地の周辺の状況も見学し、新庁舎の敷地の広さを体感しました。

(1) 区役所

築後 50 年以上経過している区役所は、何度かの増改築を繰り返されていますが、その「狭さ」に起因する様々な不都合が多く見受けられました。一方、狭いながらもスペースを有効に活用し、区民の絵や地場産業の展示を行うなどの工夫も見受けられました。

(2) 保健所

保健所も区役所と同じく「狭さ」、「老朽化」が目につきました。しかしこんな仕事までやっているのかと驚くほどその業務内容は多岐に渡っており、私たちの安心な区民生活を支える施設としての重要性を再認識しました。

(3) 福祉事務所

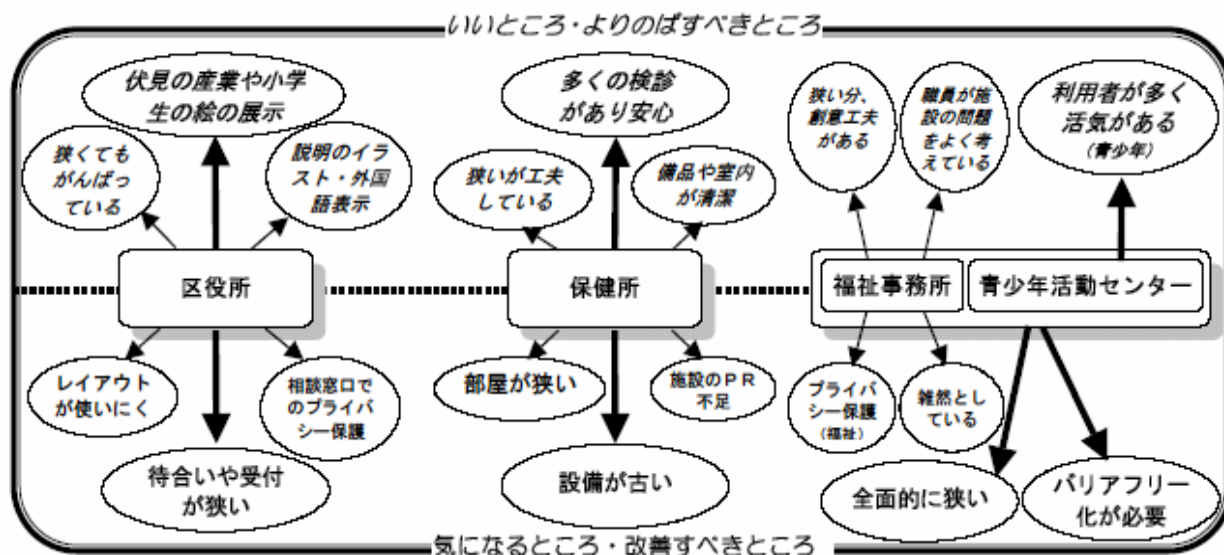
福祉事務所も「狭さ」の問題が大きいと思われました。また、施設の性格上、ユニバーサルデザインを目指した対応が大きな課題であるように見受けられました。

(4) 青少年活動センター

決して広くはなくバリアフリー化も必要ですが、若い世代を中心に利用も多く活気の溢れる施設であり、色々な可能性が感じられました。

これら施設の総合庁舎化を契機として、複合施設としての集合のメリットを最大限に生かすとともに、これまでのいいところは継承し、改善すべき点については克服するよう十分に留意していただきたいと思います。

【第2回ワークショップの取りまとめより】



3 私たちが考える伏見区総合庁舎のあり方

新しい総合庁舎は、私たち市民にとって利便性が高く、かつ時代にふさわしい施設とすることが不可欠です。更に単なる行政サービスの提供の場としてだけではなく、私たち市民の活動をサポートする場となることを強く望みます。

ワークショップで意見交換，検討を行ってきた内容から整理した次の5点が、私たち考える新伏見区総合庁舎のコンセプトです。

第一のコンセプト：「市民活動の支援」

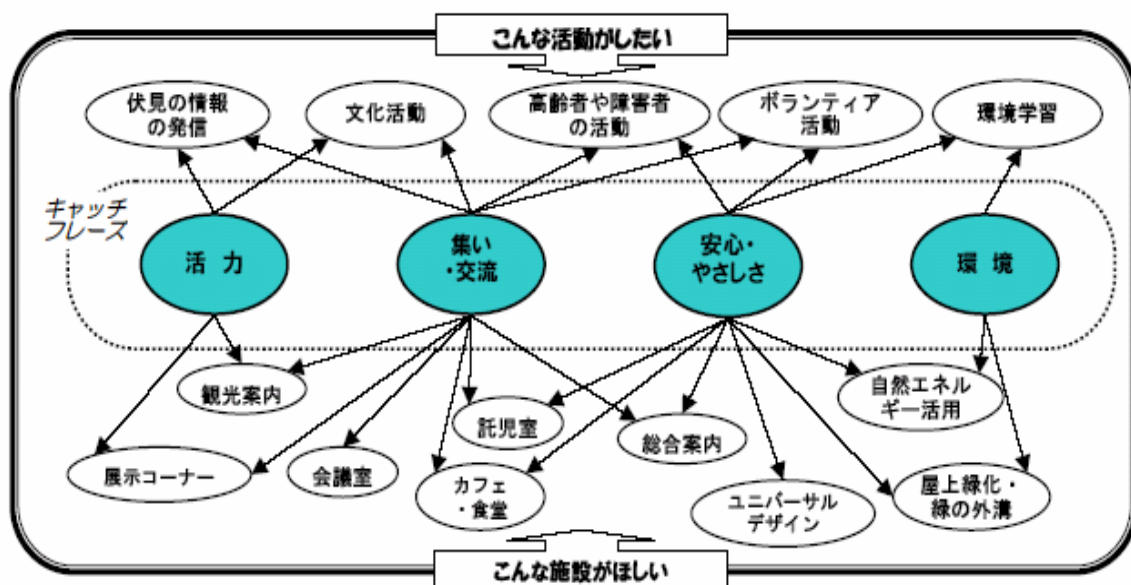
第二のコンセプト：「未来への活力」

第三のコンセプト：「集い・交流・活動」

第四のコンセプト：「安心・やさしさ」

第五のコンセプト：「環境への配慮」

【第3回ワークショップの取りまとめより】



(1) 私たちの活動を支援する場としての総合庁舎を

私たちは、次のように様々な市民の自発的な活動を行っていますが、これらの活動が今後より一層活発になるよう、そのための場を新総合庁舎に用意していただきたいと思います。その場合、だれもが利用可能であるように建物、空間をデザインするユニバーサルデザインを基本とすることを願います。

①伏見の情報の発信のための活動

②区民文化の醸成に係る活動

③高齢者や障害者のための活動

④様々なボランティア活動

⑤区民の環境意識向上に資する環境学習活動

【具体的な提案】

○市民が自由に使えるオープンスペースの確保

- ・市民が自由にくつろげる談話スペースや会議室

○市民・ボランティア活動をサポートする空間

- ・市民や区内の各種団体、ボランティアなどだれもが使いやすいフリースペース
- ・会議・講演会・展示などにも利用できる会議室・多目的ホール・研修室
(その時々状況に応じたスペースづくりが可能な可変的空間)

○市民活動の発信地

- ・区民の作品展などが開催できるギャラリーコーナー
- ・伏見の歴史や文化に触れられる展示コーナー
- ・地域の環境学習の拠点にもなるスペース

○その他

- ・パソコンの利用などが可能なフリースペース

(2) 伏見区の活力を生み出す総合庁舎を

伏見区には、全国に誇る名水、酒蔵が立ち並ぶ情緒ある景観、豊かな自然、社寺などの歴史的建造物、歴史的由緒の感じられる町名など、多くの資源があります。また、古くから酒造業などの地場産業が盛んであり、商店街のにぎわいや高度集積地区への企業立地の促進など、商業・産業が活発なまちです。

新総合庁舎が伏見のまちなみに解け込み、歴史、産業、商業などの豊富な伏見の情報を全国に発信し、新しい伏見の活力を導き出すことが必要です。

新総合庁舎が更なる伏見の活力を生み出す拠点となることを望みます。

【具体的な提案】

○豊富な伏見情報の発信地

- ・産業・観光・NPOの活動など伏見の情報を得ることができるコーナーの設置と市民ボランティアによる案内人の配置
- ・地場産業を展示できるコーナー
- ・観光客の休憩や情報収集の場

○伏見らしさに触れる

- ・「酒蔵」など伏見らしいイメージを外観あるいは施設内部に生かし、新しい感覚でも「伏見らしさ」を醸し出すとともに、周辺環境・景観にマッチした建築に
- ・エントランスに伏見区のモニュメントとなるような工夫を
- ・伏見の水やお酒に親しむ空間の設置
- ・水を身近に感じられるように
- ・シンボルとなるオブジェの設置

(3) 区民や観光客の集いや交流を促進する総合庁舎を

新総合庁舎は単なる区民サービスの提供の拠点としてだけでなく、

①区民が交流できる憩いの場であること

②観光客にも魅力的で便利な庁舎であること

が必要です。区民同志の交流や区民と観光客との交流を促進していけるような新総合庁舎となることを望みます。

【具体的な提案】

○ゆったりとした、人が集まる憩いの空間

- ・ 玄関ホールや待合室，ロビーなどを明るく広い空間に
- ・ 自販機やベンチ，喫茶室などの設置（ただし，自販機は環境にやさしいという観点からも設置の必要性について検討が必要）
- ・ 使い方によって変更しやすいインテリア

○イベントスペースやホールなど交流広場の設置

- ・ 子どもや若者，高齢者も交流できるスペース
- ・ 市民交流の場となるカフェや食堂の設置
- ・ 区民の発表の場としての展示施設や多目的ホールの設置
- ・ 区内各地での発表などの情報を得られる機能（「見せたい人」と「見たい人」の交流の場）

○観光客への配慮

- ・ 観光案内の機能（市民ボランティアの活用）
- ・ 観光名所としての酒処伏見のPR
- ・ 駅に案内板の設置，遠くから目立つ工夫を

(4) 安心やさしさを感じられる総合庁舎を

あらゆる区民へのサービスの拠点として、施設面でのユニバーサルデザイン化は言うまでもないことです。また災害に負けない、災害時にも区民の役に立ち、区民の生命を守る拠点となることも望まれます。

そして、このようなハード面だけでなく、行政サービスの質そのものがあらゆる市民にとってやさしい新総合庁舎となることを望みます。

【具体的な提案】

○ソフト／ハード両面のバリアフリー

- ・ 保健所の充実、福祉事務所を低層階に配置するなど、利用者に配慮した施設配置
- ・ 段差の解消／廊下に手すり／滑りにくい床／利用しやすいトイレ／車椅子への配慮など
- ・ 視聴覚障害者対応の設備（点字案内、電光掲示板・表示器など）
- ・ 手話通訳者や要約筆記者などの配置や職員に対する研修の実施

○子育てをサポートする空間

- ・ 子育ての不安を相談できる場
- ・ オムツ交換台つきのトイレや授乳コーナーの設置
- ・ キッズコーナーや一時託児サービス

○利用しやすい工夫と行政サービスの向上

- ・ 総合案内
- ・ ワンフロア、ワンストップサービス（受付窓口／転出入窓口の一本化など）
- ・ プライバシー保護が可能な面接室や相談室
- ・ 外国語表示、多言語対応など外国籍の方々への配慮
- ・ 待合の番号表示や呼び出しマイクによるスムーズな順番待ち
- ・ 緊急通報にも使える電光掲示板の各室への設置

○障害者、高齢者、若者の雇用創出

- ・ 障害者や若者の就業体験の場となる市民運営のオープンカフェなど
- ・ 高齢者、障害者雇用としての喫茶店

○その他

- ・ 防災拠点としての整備（緊急時に対応可能な機能／防災対策の徹底）
- ・ 建物内の完全分煙／禁煙

（５）環境面に十分に配慮した総合庁舎を

新総合庁舎は、自然エネルギーを活用するなど地球環境にやさしいものである必要があると考えます。

また、新総合庁舎には自動車での来庁者も多いと予想され、交通量の集中・増加など、周辺に大きな影響を与える可能性があると考えられます。

このような交通面と合わせ、大規模な施設となることから、その建設や運営段階における環境への配慮が十分になされることを強く望みます。

そして、新しい総合庁舎が一番環境に配慮している、と区民が誇れるものになることを期待します。

【具体的な提案】

○地球環境への配慮

- ・雨水利用や太陽光発電など自然エネルギーの活用
- ・節水、節電で環境に配慮

○緑化の推進

- ・屋上緑化など緑の多いエクステリア
- ・花壇を設け、花や植物を増やす
- ・ビオトープ的な庭、憩える場所（テラス、ベンチ）
- ・旧庁舎跡地を安心・安全な公園に
- ・庁舎の周りに観光客や市民が憩いたくなるような環境を

○周辺環境への配慮

- ・周辺の交通環境を考慮した駐車場の出入り口を
- ・自動車交通の増加による周辺住民への影響について配慮
- ・騒音など周辺環境への配慮

○駐車場・駐輪場について

- ・十分な広さの無料の駐車場・駐輪場を
- ・近隣の交通問題などを考えると広すぎる駐車スペース・無料は問題
- ・来庁者の駐車場は環境のことを考えて有料に
- ・駐車場の運営方法は（広く・少なく、有料・無料）十分に検討を

4 今後の進め方など

今後、総合庁舎の基本計画策定に向けて、本提言の趣旨を充分踏まえて頂きたく、重ねてお願い致します。

また、今回掲げた提案については、総合庁舎を含めた中心市街地全体を視野に入れ、周辺との連携と調和を図っていかれるよう、お願い致します。

加えて、総合庁舎の整備には多額の事業費を要することが予想されることから、市の財政状況や社会情勢を十分見極めつつ、具体的な建設に当たっては、設計段階でのワークショップの開催など一層の市民参加を図り、市民意見の反映に努めながら、進めていかれることを期待します。

また、総合庁舎整備と合わせて、広大な伏見区の特性を踏まえ、新庁舎へのアクセスの改善や保健所等の跡地の活用など、まちづくり全体においても魅力あるまちの実現に努力し、区民が誇れるまちづくりを目指して頂きたいと考えます。

なお、この提案書に添付した、当ワークショップの記録であるワークショップ通信及び会議で検討した資料についても十分に参照願います。

最後に区役所の職員の皆さんに申し上げます。

私たちは、ワークショップを通じ、区役所をはじめ福祉事務所、保健所そして青少年活動センターの施設や仕事をこれまでとは違った視点で改めて見ることができました。本ワークショップは新総合庁舎基本計画を対象としたものですが、施設だけが新しくなっても、その中で行われる区政運営や区政サービスが改善されなくては、全く意味がないものとなると考えます。

次の点など、新総合庁舎の整備を待たずとも、明日からでも実践していけるようなことがいくつもあるかと思われます。職員の皆さんの創意工夫を持って今後の区政運営に当たられることを強く望みます。

○サービスのワンストップ化を

区民を窓口でたらい回しにするようなことはしないでください。

○全ての区民に優しい窓口サービスを

障害のある区民にもスムーズにサービスを提供できる優しい窓口にしてください。

○不断の創意工夫を

今は狭くても職員の創意工夫が多く見られます。新しく広い空間に甘んじることなく、この精神を持ち続けてください。

5 むすびに

本ワークショップの開催に当たっては、聴覚に障害のある参加者のための手話通訳者や要約筆記者の方々、視覚に障害のある参加者のための介添えの方々、更に各グループでの検討をサポートする龍谷大学の学生の皆さんなど多くの方々の協力を得ました。この場を借りて御礼申し上げます。

そして最後になりましたが、ワークショップのコーディネーターとして私たち市民とともに考えていただいた立命館大学の谷口先生、毎回の会場設営や資料準備そして各テーブルのコーディネートをしていただいたワークショップ事務局の伏見区役所並びに京都市役所の職員の皆さんに心から感謝申し上げます。

以 上

[参考]

<ワークショップ開催の経過>

- 第1回ワークショップ「伏見らしさってなんだろう？」
平成16年11月27日（土） 午後2時～4時30分 伏見区役所
- 第2回ワークショップ「今の区役所ここがよい・ここが気になる」
平成16年12月12日（日） 午後2時～4時30分 伏見区役所
- 第3回ワークショップ「私たちが考える望ましい伏見区総合庁舎」
平成17年 1月15日（土） 午後2時～4時30分 伏見区役所
- 第4回ワークショップ「提案書をつくろう」
平成17年 2月 6日（日） 午後2時～4時30分 伏見区役所

<添付資料>

「我らが新伏見区総合庁舎ワークショップ通信」第1号～第4号
ワークショップ資料一式及び各テーブルで作成した模造紙

<進行役>

コーディネーター 谷口 知弘
テーブルコーディネーター 廣瀬 智史, 竹内 俊雄, 安田 真也,
保田 篤司, 山本 章弘, 市田 香